

平成 27 年 10 月 5 日

「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」 平成 27 年度の結果発表

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
(ディスクロージャー研究会)

1. 当協会ディスクロージャー研究会では、平成 7 年度から毎年「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」を実施し、その優良企業の表彰を行っております。本年度は、以下の 3 部門の企業を評価対象と致しました。

(1) 業種別（本年度は 14 業種（注））の優良企業選定

- ・平成 7 年度以降 21 回目。東証 1 部上場企業の 14 業種につき、時価総額等により選定の企業を評価対象。（本年度は 213 社）

（注）14 業種のほか 2 業種（食品、機械）ありますが、当該 2 業種の優良企業選定は本年度休止。

(2) 新興市場銘柄の優良企業選定

- ・平成 17 年度以降 11 回目。新興 5 市場上場企業の時価総額等により選定の企業を評価対象。（本年度は 26 社）

(3) 個人投資家向け情報提供の優良企業選定

- ・平成 17 年度以降 11 回目。上記の各業種および新興市場銘柄の評価結果上位 1 割の企業のうち、本年 6 月以前 1 年間に於いて、「個人投資家向け会社説明会」を開催している企業を評価対象。（本年度は 20 社）

2. 本年度より、上記(1)(2)(3)により選定された優良企業が、ホーム・ページ等で「ディスクロージャー優良企業」受賞について広報される際に使用して頂くことを期待して、優良企業ロゴマークを制定致しました。

(1)業種別の優良企業

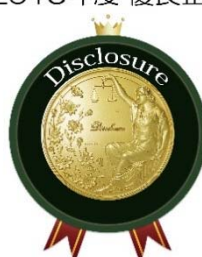
ディスクロージャー
2015年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

(2)新興市場銘柄の優良企業

ディスクロージャー
新興市場銘柄
2015年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

(3)個人投資家向け情報提供の優良企業

ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2015年度 優良企業



SAAJ 公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

3. ディスクロージャー優良企業の報告は、10月9日（金）開催予定の第30回日本証券アナリスト大会においても行います。

なお、昨年度まで同大会で優良企業表彰盾の贈呈式を実施しておりましたが、今年度より諸般の事情により実施しないことと致しました。

それに替えまして、ディスクロージャー研究会の各専門部会において評価対象企業、評価項目の選定および評価結果の取りまとめに従事した部会長など代表者が、評価結果のフィードバックのために当該企業を訪問した際に贈呈することとなっております。

- 【添付資料】
1. ディスクロージャー優良企業
 2. 高水準のディスクロージャーを連続維持している企業およびディスクロージャーの改善が著しい企業
 3. 概 括
 4. ディスクロージャー研究会委員および同専門部会長

詳細は、当協会ホーム・ページ (www.saa.or.jp/disclosure/selection.html) に掲載しております「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定(平成27年度)」をご参照ください。

(本件に関するお問い合わせ先)

日本証券アナリスト協会

〒103-0026 中央区日本橋兜町 2-1 東京証券取引所ビル 5 階

ディスクロージャー担当： 青木 / 齋藤

電話：03-3666-1272・3666-5845 / Fax：03-3666-5843

ディスクロージャー
2015年度 優良企業



SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

(資料1)

ディスクロージャー優良企業

建設・住宅・不動産	大東建託	(6 回連続 7 回目)
化学・繊維	旭化成	(12 回連続 12 回目)
医薬品	シスメックス	(新 規)
石油・鉱業	昭和シェル石油	(新 規)
鉄鋼・非鉄金属	住友金属鉱山	(5 回連続 5 回目)
電気・精密機器	オムロン	(3 回 目)
自動車・同部品・タイヤ	富士重工業	(2 回連続 2 回目)
電力・ガス	東京瓦斯	(4 回連続 9 回目)
運輸	東日本旅客鉄道	(4 回連続 8 回目)
通信・インターネット	日本電信電話	(新 規)
商社	三菱商事	(1 4 回 目)
小売業	ローソン	(4 回連続 9 回目)
銀行	三菱UFJフィナンシャル・グループ	(2 回連続 4 回目)
コンピューターソフト	SCSK	(2 回連続 3 回目)

新興市場銘柄 セリア (2 回連続 2 回目)

ディスクロージャー
新興市場銘柄
2015年度 優良企業



SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

(2 社同得点 3 位)

ピーシーデポコーポレーション (新 規)

フジオフードシステム (新 規)

プロトコーポレーション (6 回 目)

個人投資家向け情報提供 シスメックス (4 回連続 4 回目)

ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2015年度 優良企業



SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

三菱UFJフィナンシャル・グループ (新 規)

日本電産 (3 回連続 9 回目)

(注) 同順位の場合、社名はコード番号順に掲載

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して上位（2位ないしは3位）の評価を受けた次の5社を高水準のディスクロージャーを維持している企業として称賛状を贈呈することと致しました。

建設・住宅・不動産	長谷エコーポレーション
医薬品	塩野義製薬
電力・ガス	電源開発
運輸	ヤマトホールディングス
コンピューターソフト	野村総合研究所

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいとして評価された次の6社に称賛状を贈呈することと致しました。

化学・繊維	三井化学
電気・精密機器	ソニー
〃	TDK
商社	双日
小売業	丸井グループ
コンピューターソフト	ITホールディングス

概 括

ディスクロージャー研究会
座 長 許 斐 潤

本ディスクロージャー優良企業選定は本年度で 21 回目を迎えたが、その概要は次のとおりである。

1. 評価対象

- (1) 業種別については、原則として東証一部上場株式時価総額を基準として選定した、建設・住宅・不動産（16 社）、化学・繊維（18 社）、医薬品（19 社）、石油・鉱業（7 社）、鉄鋼・非鉄金属（14 社）、電気・精密機器（22 社）、自動車・同部品・タイヤ（20 社）、電力・ガス（15 社）、運輸（18 社）、通信・インターネット（12 社）、商社（7 社）、小売業（18 社）、銀行（14 社）、コンピューターソフト（13 社）の 14 業種合計 213 社を対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの五つの市場に上場している企業の中で、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定以上の 26 社を対象とした。このうち 17 社は昨年度からの継続評価対象、3 社は再対象、6 社は新規である。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（14 業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割（小数点切上げ）のうち、平成 26 年 7 月から 27 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している企業の 20 社を対象とした。このうち、継続対象が 11 社、再対象が 2 社、新規が 7 社である。
- (4) 評価対象としたディスクロージャーの状況は、原則として、平成 26 事業年度に関する企業情報（平成 27 年 6 月の評価実施時点までに開示された情報を含む。）に係るものとした。

2. 評価方法等

- (1) 業種別評価基準は、各業種共通項目として、「1. 経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス」、「2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示」、「3. フェアー・ディスクロージャー」、「4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」、「5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示」の五つの分野を取り上げることとした。各分野の配点は、一定の範囲内で各専門部会が決定し、また、各分野の具体的評価項目、配点も、それぞれの専門部会の判断に基づき設定した。

この業種別評価基準（スコアシート〈以下同〉）に基づき、証券アナリスト経験年数 3 年以上でかつ現在当該業種担当概ね 2 年以上のアナリスト、延 428 名が評価を行った。なお、各評価対象企業の評価に当たっては、各アナリストの自主申告により、過去 1 年間における当該企業への接触回数（4 回以上）の要件を満たしていることとしている。

- (2) 新興市場銘柄については、各評価対象企業の業種が一律でないことから、上記の 5 分野のうち、「各業種の状況に即した自主的な情報開示」を除く 4 分野に関して、10 項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準に基づき、新興市場銘柄をカバーしている（当該企業の情報開示に関しコンタクト実績がある）

63 名のアナリストが評価を行った。

- (3) 個人投資家向け情報提供については、「1. 個人投資家向け会社説明会の開催等」、「2. ホーム・ページにおける開示等」、「3. 事業報告書等の内容」の 3 分野について 16 項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準のうち、5 項目については、各評価対象企業にアンケート調査を実施しその回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目は、証券会社において、個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリストから構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員 15 名が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。
- (4) 上記の評価結果を基に、経験豊富なアナリストで構成する各専門部会（16 部会、計 121 名の委員）において慎重に分析し、各部会としての報告書の取りまとめを行った。当研究会は、この報告書を基に各業種等の優良企業の選定を行った。

3. 評価結果

評価結果の詳細は、後掲の各専門部会の報告に示すとおりであるが、その概要は次のとおりである。

- (1) 業種別における評価平均点は、建設・住宅・不動産 68.1 点（昨年度 70.6 点、以下カッコ内は昨年度）、化学・繊維 73.8 点（73.2 点）、医薬品 72.7 点（73.3 点）、石油・鉱業 69.1 点（68.8 点）、鉄鋼・非鉄金属 72.9 点（73.7 点）、電気・精密機器 76.5 点（73.5 点）、自動車・同部品・タイヤ 66.3 点（65.1 点）、電力・ガス 66.0 点（65.4 点）、運輸 67.4 点（70.8 点）、通信・インターネット 70.2 点（68.5 点）、商社 74.7 点（75.4 点）、小売業 70.2 点（74.2 点）、銀行 75.2 点（77.8 点）、コンピューターソフト 65.1 点（63.7 点）であった。

業種別における業種間の評価平均点の違いは、具体的評価項目の内容および配点に業種間の相違があることも反映している。また、昨年度の評価平均点との比較に関しては、具体的評価項目の増減や内容の修正、配点の見直し、対象企業の増減といった点等を考慮する必要がある。特に、本年度はコーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示の分野において、配点を増加し、または具体的評価項目を追加した業種もある。従って、一概に数値の増減だけでディスクロージャーの水準について昨年度と厳密に比較することは難しいものの、各業種別専門部会における評価結果の取りまとめ審議や、評価を行ったアナリストの意見等を総合的に勘案すると、企業のディスクロージャーは概ね向上傾向にあると評価することができる。ちなみに、本年度は、改善が著しい企業として 6 社が挙げられた。

なお、「有益な、工場見学会、事業部説明会、技術説明会、店舗（施設）見学会等の積極的な開催」については、多くの業種において、総じて評価の水準が低く、今後の改善が望まれる。

- (2) 新興市場銘柄の評価平均点は 62.9 点（昨年度 63.4 点）であった。

本年度は評価対象企業 26 社中、再対象 3 社と新規対象 6 社が含まれていることを勘案すると、数値上からディスクロージャーの水準について昨年度と比較することは難しい。しかしながら、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの企業で、経営陣自ら IR を行っていること等その取組姿勢や、IR 部門の対応等その機能について、評価することができるとの声が多かった。

- (3) 資本市場の活性化を図るためには個人投資家の株式市場への一層の参入が不可欠であるとの認識が高まるとともに、近年多くの企業において、IR 活動の対象として個人投資家を重視する傾向が高まっていること等を考慮し、本制度の対象として継続して個人投資家向け情報提供を取り上げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は 71.5 点であった。

評価結果を見ると、本年度も多くの評価対象企業が、個人投資家に対する情報提供を充実するための努力を行っている様子がうかがえた。具体的評価項目とした「個人投資家向け会社説明会の開催」については、過去1年間の平均開催回数9.6回（昨年度9.9回）と昨年度とほぼ同水準となっている。また、全対象企業の20社中、15社が同説明会の内容をホーム・ページに掲載しており、そのうち9社（60%〔昨年度65%〕）は、動画または音声配信をしている。その充実度や分かりやすさについての評価結果も昨年度を若干上回った。また、ホーム・ページに個人投資家向けコーナーを設けている企業は、全社（100%、同96%）あり、画面構成や分かりやすさ等に工夫が見られるほか、事業報告書等の内容について、写真、グラフ、図表を適度に用いて、個人投資家が知りたいことを分かりやすく、かつ簡潔に説明するといった努力がうかがえる企業が多く見られた。

最後に、本年度の作業には、各専門部会委員およびスコアシート記入者として多数の経験豊富なアナリストが参加されたが、いずれも多忙を極める中で、企業ディスクロージャーの促進・向上、充実を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に当たっていただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。

ディスクロージャー研究会委員

座長	許斐 潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤リサーチ・アント・アドバイザー
	岩田 直樹	野村アセットマネジメント
	河村 哲孝	明治安田生命保険
	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
	津田 和徳	大和証券
	森田 正司	岡三証券
	横沢 泰志	みずほ銀行

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	高木 敦	モルガン・スタンレー MUFG 証券
食 品	佐治 広	みずほ証券
化 学 ・ 織 維	金井 孝男	シティグループ 証券
医 薬 品	田中 洋	みずほ証券
石 油 ・ 鉱 業	塩田 英俊	SMBC 日興証券
鉄鋼・非鉄金属	山口 敦	UBS 証券
機 械	齋藤 克史	野村證券
電気・精密機器	嶋田 幸彦	SMBC 日興証券
自動車・同部品・タイヤ	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
電 力 ・ ガ ス	新家 法昌	みずほ証券
運 輸	一柳 創	大和証券
通信・インターネット	忍足 大介	JP モルガン・アセット・マネジメント
商 社	成田 康浩	野村證券
小 売 業	正田 雅史	野村證券
銀 行	高井 晃	大和証券
コンピ ューターソフト	上野 真	大和証券
新興市場銘柄	納 博司	いちよし経済研究所
個人投資家向け情報提供	竜沢 俊彦	野村證券